

# JRCだより

(青少年赤十字 Junior Red Cross)



文責: JRC担当 江口

## トレセンに行ってきました

8月1日(火)～3日(木)に諫早青少年自然の家にてリーダーシップ・トレーニング・センター(トレセン)がありました。長崎県下のJRCに加盟している小学校から高等学校までの児童、生徒、職員が集まり、赤十字について学んだり、さまざまな活動を通してそれぞれのリーダーシップを磨きました。清水中学校からは2年生が21名、1年生が1名参加しました。トレセンでのたくさんの経験を通して、より良い清水中学校を築くリーダーとしての意識が生まれたことでしょうか。トレセンメンバーのこれからの生活に注目です!!

→HRで話し合い



→レク  
何の形!?



→手話歌練習中



トレセンでは中学生メンバーでホームルーム(クラス)を組みます。ホームルームは基本的に自分たちで進めていかなければなりません。そこで様々な活動、話し合いをして協力しながら生活します。ホームルームでの活動では、相手の気持ちを考えて尊重したり、自分の気持ちの伝え方を学んだりします。

時には、小～高校生まで一緒になってレクリエーションや学習をしました。内容は、上海交流事業の紹介・報告や手話や折り紙、高校生の考えたゲームなどいろいろな内容がありました。

→V・Sボードの掲示



→前庭の草むしり



→ダンボール片づけ中



V・S(ボランティア・サービス)をしている様子です。トレセンでは、V・Sボードを見ながら生活をします。V・Sボードには大切な連絡や、お願い、お知らせが載っています。お願いの中には「外の草むしりを手伝ってください。」など、生活の中で困ったことに気付き改善するための募集を掲示して、手伝える人、賛同する人が協力して活動していました。学校生活でも、自分にできることに自然と気付いて行動する姿がトレセンメンバーからトレセンに参加していない生徒へも広がっていくと嬉しいですね。

## 青少年赤十字のおこり

青少年赤十字について知ろう⑥

青少年赤十字は誰がつくったのでしょうか? 第一次世界大戦のとき、カナダ、アメリカ、オーストラリアの学校の子どもたちがヨーロッパの戦場となった国々の少年少女や傷病者を励ますために、学校で作った作品や、文房具、支援物資や手紙を赤十字を通して送りました。

赤十字は、戦場で苦しむ人々を側面から援助する生徒の活動に賛同し、子どもたちが赤十字を理解し世界に貢献できるよう、日ごろから望ましい人格と精神を自分で作り上げてほしいと考え、青少年赤十字をつくりました。

**子どもたちが、今必要なこと、自分にできることを考える気持ちや、行動が青少年赤十字をつくったのです。**